



THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

No.82

MAR. 31, 2001

目 次

新入生歓迎号	1
新入生のための図書館利用案内	2
私の推薦する本	8
医学分館貴重資料紹介	9
地域とともに図書館活動の充実発展を	11
本学関係教官著作寄贈図書（平成12年10月から13年1月）	13
長崎県関係資料紹介	14
図書館日誌	15

付1、附属図書館開館・休館予定表 （平成13年4月から13年9月）
（平成13年10月から14年3月）

付2、図書館資料配置図 （中央図書館・医学分館・経済学部分館）

— 新入生歓迎号 —

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

図書館では皆さんの学習・研究を援助しようと、ひたすら利用しやすい図書館を目指して努力しています。

この「図書館ニュース」では、図書館の利用の仕方、蔵書の配置場所、図書館の開館・休館について簡便に説明しています。

また、「図書館のホームページ」からは、利用案内や蔵書検索、各種データベースの検索ができます。パソコンによっても図書館を大いに利用されますようお勧めします。

卒業までの間、図書館を充分に使い、実りある学生生活を過ごされますようお願いしています。

新入生のための図書館利用案内



図書館は、正門から入って右側の通り、2階へ階段が伸びた建物です。図書館へは階段を登って、2階からお入りください。

開館時間

月曜日～金曜日 9:00～20:00
土曜日 10:00～17:00

ただし、春・夏・冬の休み期間中は、
月曜日～金曜日 9:00～17:00
土曜日 休館

入館するとき

学生証を持参してください。
学生証に印刷してあるバーコード部分を入館システムに読みとらせればバーが開きます。
カバン類もそのまま持って入れます。

休館日

日曜日、国民の祝日、開学記念日（5月31日）
年末年始（12月28日～1月4日）

ただし、試験期間中は、
日曜・祝日も開館 10:00～17:00

※開館時間、休館日の変更は掲示等でお知らせします。

退館するとき

貸出手続きは済んでいますか。
手続きをしないで図書館資料を持ち出すと、出口でピーピーと警報音が鳴り、バーがロックされて通過できません。
なお、携帯電話、電卓、金属類に反応することもありますので、手荷物のチェックにご協力ください。

☆飲食と喫煙は厳禁、携帯電話の電源は切りましょう。

借りるとき

学生証が図書館利用者証を兼ねています。
学生証と借りたい図書をカウンターに提出してください。借りたい図書が所定の場所がないときは、カウンターにご相談ください。

貸出冊数

5冊以内
これとは別に、医学分館、経済学部分館でもそれぞれ3冊まで借りることができます。

貸出期間

2週間以内
春・夏・冬の休み期間中は休み明けまでです。

貸出の予約

読みたい図書が貸し出されているときは、貸出の予約ができます。

貸出の更新

継続して借りたい図書は、予約のないときに限り、もう2週間だけ延長して借りることができます。学生証と更新したい図書をカウンターに提出してください。休み明けは更新できません。

コピーする

館内の資料をコピーする時は2階閲覧室に設置されている複写機をご利用ください。著作権法の範囲内で図書館の資料をコピーすることができます。

返すとき

返却する図書を持ってカウンターにおいでください。閉館時は2階玄関前に返却ポストがありますので、こちらをご利用下さい。

返却が遅れた場合は、遅れた日数だけ借りることができません。
分館を含めて1冊でも遅れている図書があると新たに借りることはできません。
1週間遅れると1週間借りられないことになりますから、注意してください。

資料を探す

オンライン目録

コンピューター端末を使って学内に所蔵する図書・雑誌を調べることができます。

カード目録

1989年4月以前に受入れた図書を調べることができます。

※資料が見つからないときはカウンターにご相談ください。

資料をとりよせる

学内にない資料はとりよせることができます。
国立大学からの文献複写の場合は1枚35円と送料、図書の借用は往復の送料が必要です。
カウンターにご相談ください。

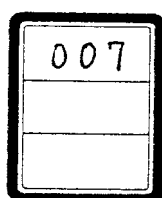
図 書

2階には借りることのできない参考図書（禁帯出ラベルが貼ってあります）、3階には借りることのできる開架図書があります。いずれも背表紙の図書ラベル最上段の分類番号順に並んでいますので、とり出した本は必ず所定の位置に戻して下さい。あるはずの本が見つからないということになりかねませんので、皆さんのご協力をお願いします。なお、3階に新着図書コーナーを設置しましたので、ご利用ください。

禁帯出ラベル



図書ラベル



→ 分類番号

雑 誌

2階雑誌閲覧室に、和雑誌は誌名の50音順、洋雑誌はABC順に並んでいます。最新刊は外側に、それ以前の1年分はパネルの中に入っています。大学紀要は別の雑誌架に大学名の50音順に、その他の研究報告類は分野ごとに並んでいます。いずれの場合もそれ以前のものは書庫にあります。

雑誌の貸出はできません。必要な個所は館内の複写機でコピーすることができます。

新 聞

朝日、長崎、日経、西日本、毎日、読売、The Japan Times, The Daily Yomiuri, The New York Times（週刊）、Herald Tribuneおよび留学生向けの新聞があります。

3階新聞コーナーに1週間分、カウンター内に1ヶ月分、それ以前の分は書庫にあります。

朝日と毎日には縮刷版（紙面を縮小印刷して月単位で刊行されたもの）があり、2階参考図書閲覧室に置いてあります。

視 聴 覚 資 料

ビデオテープ、カセットテープ、CD等は、2階資料サービス係で本体を保管しています。カウンターで手続きをして、ご利用ください。ビデオテープは館外貸出できませんので、視聴覚コーナーでご利用ください。

C N N の 放 映

アメリカのニュース専門チャンネルです。

3階で開館時間中は継続放映しています。

視聴はソファに備え付けのヘッドフォンをご利用ください。着用後に自動的に電源が入り音声流れます。音声はすべて英語です。

C D - R O M

電子地図帳、Oxford English Dictionary、理科年表、風俗画報、法律判例文献情報、ブリタニカ、世界大百科事典、生物学辞典、広辞苑、国語大辞典、日本統計年鑑など参考図書のCD-ROM版です。2階参考調査係にご相談ください。

パ ソ コ ン

総合情報処理センターのパソコンが2階に配備されています。ワープロ、表計算のほか、インターネットの利用も可能です。

図書館ホームページもご活用ください。

図 書 館 Q and A

Q：文献の調査で迷ったら？

A：参考調査係では、皆さんが学習・研究に必要な文献や情報をさがすにあたって、援助したり、関連する情報を提供したりします。また、文献の所在調査、事項についての調査、参考図書や目録の使い方の指導を行っています。お気軽にご相談ください。

Q：書庫の資料を利用するには？

A：カウンターで入庫手続きをすれば中に入れます。入庫時間は9:00-17:00（月曜日－金曜日）です。

Q：図書をリクエストしたい時は？

A：学内に所蔵していない図書の購入希望を受け付けています。資料サービス係にご相談ください。

Q：インターネットは自由に使えるの？

A：図書館2階のパソコンルームで使えます。利用者IDが必要です。総合情報処理センターが発行しています。

Q：自分のパソコンは使えないの？

A：図書館3階の「情報コンセントルーム」では、自分のノートパソコンをインターネットに接続できます。総合情報処理センターの利用者IDが必要です。

Q：新聞の保存状況は？

A：長崎新聞（原紙） 15年分

朝日新聞，読売新聞，毎日新聞，西日本新聞，日本経済新聞，科学新聞（原紙） 3年分

朝日新聞（復刻版）明治21－大正8、（縮刷版）昭和17－現在

毎日新聞（縮刷版）昭和40－現在

The Daily Yomiuri, The Japan Times, The New York Times;Weekly Review（原紙）
3年分

Herald Tribune（原紙） 平成12年10月- 現在

Q：他大学図書館を利用するには？

A：相互利用係にご相談ください。必要な場合は紹介状を交付します。利用したい図書館の利用条件をインターネット等で調べ、学生証を携帯し訪問願います。なお、九州地区の国立大学附属図書館は学生証を提示すれば紹介状なしで利用することができます。

Q：飲食、喫煙したい。場所は？

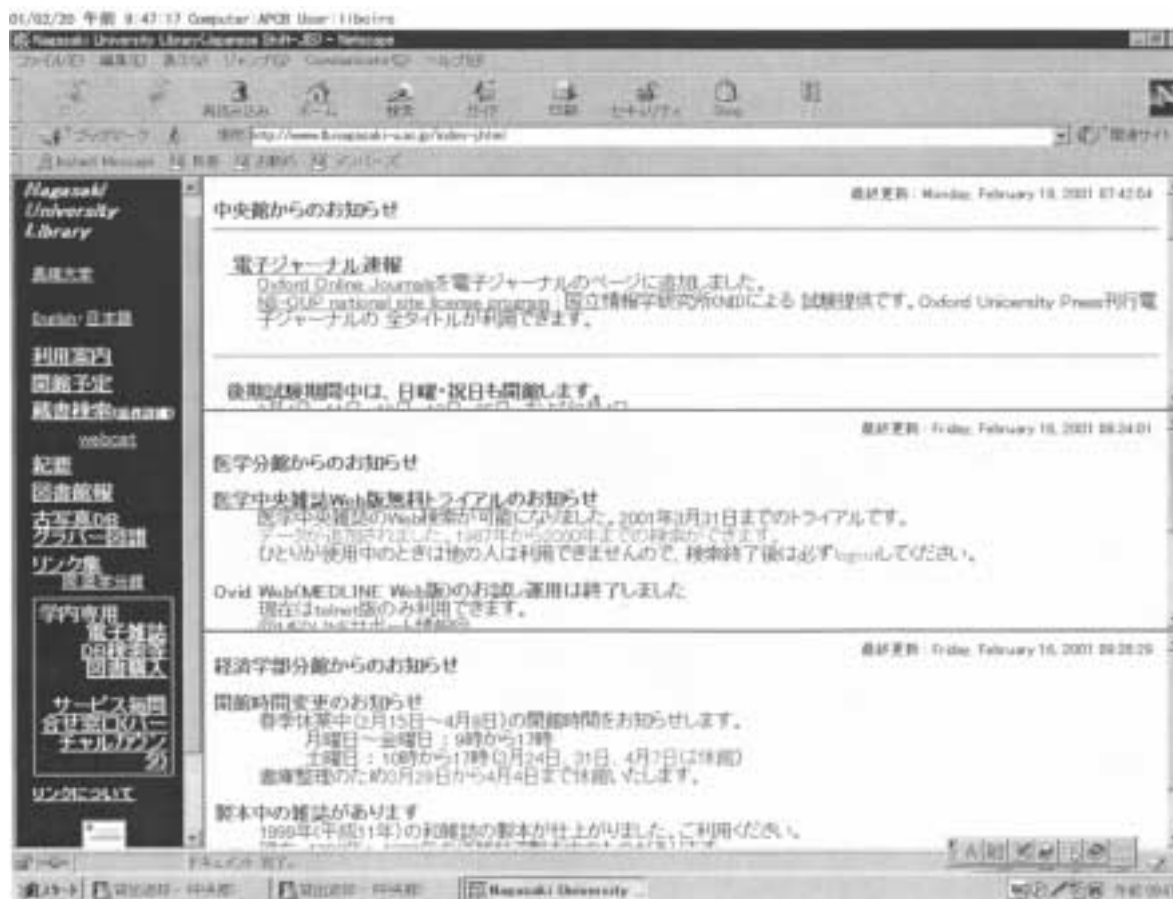
A：館内での飲食、喫煙は厳禁です。喫煙は2階玄関前のテラスでお願いします。

図書館ホームページへようこそ

<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/index-j.html>

図書館ではインターネット上にホームページを開設しています。

図書館の利用案内やその他の有用な情報を満載しています。どうぞご利用ください。



- ※利用案内 中央図書館（文教地区）、医学分館（坂本地区）、経済学部分館（片淵地区）の開館時間、資料の配置、貸出と返却、その他がわかります。
- ※開館予定 3館の開館日、開館時間がわかります。
- ※蔵書検索 長崎大学所蔵の図書・雑誌の検索ができます。
- ※紀要・館報 当館の図書館ニュースや学内の紀要を電子化し、試験公開しています。
- ※古写真・
グラバー図譜 長崎大学の貴重資料である「幕末・明治期日本古写真コレクション」「グラバー図譜」を閲覧することができます。
- ※リンク集 何かと便利なリンク集です。必要な情報を探す時にきっと役立ちます。
- ※学内専用 学内限定ページです。電子雑誌、雑誌記事索引、朝日新聞記事、その他にアクセスできます。

図書館のホームページから各種データベースへ

すべて図書館のHPから利用することができます。③から⑥は学内限定利用ページです。



① 「OPAC」

長崎大学所蔵図書・雑誌の検索



② 「NACSIS-Webcat」

全国の大学が所蔵する図書・雑誌の検索



③ 「NICHIGAI-Web」

図書・雑誌記事・人物情報の検索



④ 「DNA」

「朝日新聞」掲載記事の検索



⑤ 「Electronic Journals」

各種電子ジャーナルの検索



⑥ 「First Search」

様々な分野の各種データベースの検索

ネットワーク端末は、総合情報処理センター、中央図書館、医学分館、経済学部分館でご利用できます。

私の推薦する本

経済学部教授 津 曲 俊 英

1. ローマの歴史

I.モンタネッリ著、藤沢道郎訳、中央公論社、1979年

古代ローマの歴史については、中学校から高校でも、更には大学に入ってからでも何がしか習ったり勉強したりしたことでしょう。

それらは事件や人名を覚えたりで、面白くはなかったかもしれません。大体学生時代に読むことが推薦される本には面白くない本が多いものです。

ところが、この本は歴史の本としては、掛け値なしに面白く読めます。ローマの起源から始まって、西ローマ帝国の終焉まで様々な人物を中心に多くのエピソードや事件が描かれていますが、他の歴史の本と違って、とても人間くさい歴史なのです。例えば、カエサルの方では「自分の欠点を大目に見てもらったかわりに、他人の欠点にも寛容だった。」と書いています。

この本を読むと、歴史が息づいたものとして見えてきます。

2. ヴェニスの商人の資本論

岩井克人著、筑摩書房、1984年

実はこの本を読むきっかけとなったのはこの著者の他の本でした。正確には、最初に「貨幣論」、次に「21世紀の資本主義論」そしてこの本です。何れも学術書と言うよりも、評論とでも言えるようなものです。それだからといって気楽に読めるかと言うと、必ずしもそうではありません。と言うのも、これら一連の本は、資本主義の基礎をなしている「貨幣」とは何か、その逆説とは、といった疑問を投げかけ、それらに対する著者の考えが著されています。

私も「貨幣」、「通貨」の本質とは何かと言うことが分からないままここに至っているのですが、

例えば、「ホンモノのおカネの作り方」として、「ニセガネを作らないようにすればよい」とされているように、目の覚めるような文章が並んでおり、考えさせてくれます。3冊とも筑摩書房から出ていますので、お勧めします。

3. 法の窮極に在るもの

尾高朝雄著、有斐閣(法学全書)、1947年

またずいぶんと古い本を引っ張り出してきたと思われるかもしれません。事実、この本は昭和21年に尾高先生が書かれたものです。昭和21年と言うと、第2次世界大戦が終わってまもなくの時期です。国内的にも、世界的にも政治、経済、法の大きな転換点にありました。「法は政治によって作られるし、また、しばしば政治によって破られる」と言う現実の中にあっても、「政治の圧力がいかに強大であっても、経済の法則がいかに一切のイデオロギーを無視して作用するように見えても、その更に根底には、政治の矩となり、経済に方向を与えるところの法の理念が厳存するという著者の信念」に基づき書かれています。

このような「法の窮極に在るもの」は、国内だけではなく、国際社会のあり方についても考える基盤を提供してくれる名著です。社会科学の学徒は言うに及ばず、大学生みんなに読んで欲しいと思います。

(つ magari としひで)

❖❖❖ 医学分館貴重資料紹介 ❖❖❖

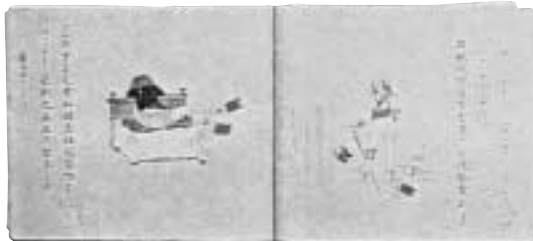
医学分館運用係長 山 崎 藤 子

安政4年(1857年)に現在の長崎大学医学部の前身である医学伝習所が開校された。その後幾多の変遷を経て長崎医科大学時代迄に所蔵された貴重資料は佐賀県立鹿島中学校に疎開し原爆による被災を免れた。今回はその中でも特筆される3点、紅夷外科宗伝、聴胸器、解剖紙型模型(キュンストレーキ)及び平成になって新収資料となった、長与専斎書、牛痘詠(掛軸)、ハイステル外科書について紹介する。

◎紅夷外科宗伝

榎林鎮山著、1711成、2冊(写)

榎林鎮山はケンベルの門人。慶安4年(1648)生まれ。フランスルネッサンス期の外科医アンブロアズ・パレ(Ambroise Paré (1509-1590)の外科書をカルロス・バッツス(Carolus Battus)が蘭訳した、De Chirurgie ende Opera van alle de Werken van Mr. Ambroiseによって彩色化して説明を加えたものである。現在に至るまで色彩は鮮明である。貝原篤信(益軒)の宝永3年(1706)附序文がある。



紅夷外科宗伝

ので、嘉永元年(1848)、オットー・モーニッケ(Otto Mohnike)が長崎に渡来した際にもたらしたものと見られる。この聴胸器については、長崎医科大学 角尾晋学長の「ふたたび長崎医科大学所蔵の古い聴診器について」日新医学34巻1号 1-6p.昭和22年(1947)に詳しい論文がある。



聴 胸 器

◎聴胸器

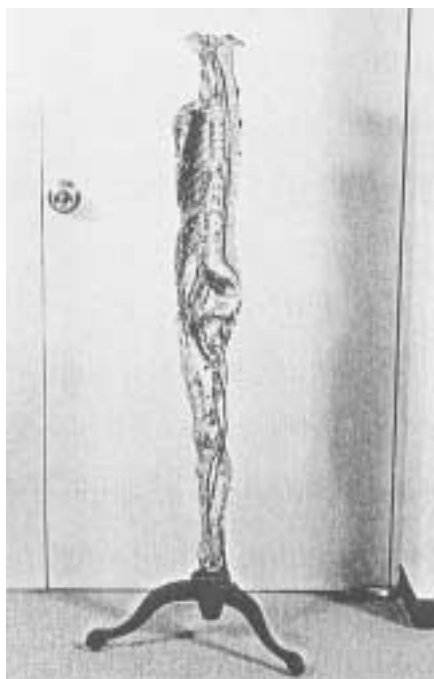
木製 1個

1816年フランスの医師ラエンネック(Laennec)は初めて紙筒を用いて心臓疾患及び胸部疾患(結核)患者の胸部を聴診し、次いで、紙筒の代わりに随空のある樹幹を使用し、その後木製の円筒型聴診器を作成して、これをStethoscopeと命名した。その後、幾多の改良により現今の聴診器に発達したといわれている。この聴診器はラエンネックが考案した初期のも

◎解剖紙型模型 1個

ポンペ(Pompe)が解剖学の講義に使用するため、フランスの解剖学者・ルイ・トマ・ジェローム・オーズー(Luouis Thomas Jerome Auzoux)の製作した張抜模型をパリから購入、持参した。以後長崎医学校時代まで使用したという。当時1週3時間の授業の際に展示していたので、実習の困難な時代にあっては学生にとっ

て貴重で、便宜なものであった。昭和40年代に解剖学第一教室に保管されていたものを図書館に移管されたものである。



解剖紙型模型

◎牛痘詠 掛軸 1軸

長与専斎書、平成11年(1999)に秋月辰一郎氏から寄贈されたものである。長与専斎は数代漢方医として大村藩に仕えた家に天保9年(1838)に生まれた。祖父の俊達はバタビアから取り寄せたモーニッケ(Otto Mohnike)の牛痘苗を大村藩に広めた人である。長与専斎はポンペ、ボードイン、マンスフェルトに師事し「松香私志」を著した。その中で当時、痘瘡苗の入手は年に一度の蘭船を待ち望み、接種の方法は鼻からの痘苗は危険が多い事、皮膚への接種が学説にも叶い、試行錯誤の末定着されていた事などが記されている。文面の解説文は以下のとおり。
痘種 尽く（ことごとく）牛種に本づく。方（まさに各州の黄波(黄熟した麦の穂)を度（はかり）未未だ占拿（ひとりじめ）を議せずと（いえども）、此の幽を開き恠（怪）に更（かわる）。三針血、能く百歳の憂いを休む。偉（優れて盛大）なる哉。撫育徳功は天体と化せん。牛痘を詠ず。 松香（長与専斎の号）



牛痘詠

◎ハイステル外科書

Heistervs Lavrentivs (Heister Lolentz) 著
D. Lavrentii Heisteri Institutviones Chirvrgicae.
1750年刊 2冊

この図書は平成12年(2000)第一生理学教室から図書館に寄贈されたものである。ハイステル(1683-1758)はフランクフルトに生まれた。ハイデルベルク大学卒業後、ヘルムシュタット大学の外科学教授及び植物学教授も兼ねた。ドイツ外科学の基礎を築いた人として高く評価されている。1718年に初版が刊行されているが、その後諸外国語に訳述されている。本書はAmsteraedamで刊行された。本文中には、Bibliotheca Chirvrgica Si-vescriptores mei Chirvurgiciがあり、16世紀から17世紀にかけての参考文献(Book)が数多く紹介されている。図版、印刷共鮮明で状態もよい。江戸時代後期にはHendrick Ulhornのオランダ語訳を通じて大槻玄沢が「瘍医新書」、杉田玄白が「瘍科大成」等の訳書が刊行されている。



ハイステル外科書

これらの資料を通じ、長崎が鎖国時代において唯一開放されていた都市であり、現在の我々の想像を遥かに超え、知識欲に燃えた熱い先人達の想いを多少なりとも感じざるを得ない。奇しくも平成11年(1999)は種痘伝来150周年でありこの時期に牛痘詠の掛軸の寄贈を受け、又平成12年(2000)は日蘭交流400周年を迎え、オランダ版のハイステル・外科書を入手できた事は非常に意義深いものと思う。これらの資料を大切に管理し、寄贈して下さい秋月辰一郎氏、及び第一生理学教室(主任教授 相川忠臣)へ深く感謝とお礼を申し上げる。

(やまざき ふじこ)

地域とともに図書館活動の充実発展を ～平成12年度 長崎県大学図書館協議会の活動について～

県内全ての大学と短期大学の図書館に加えて高等専門学校の図書館も加盟する長崎県大学図書館協議会(以下、県大図協)は、平成7年6月に正式に発足し、以来、長崎大学附属図書館が代表幹事館を勤めている。

県大図協では、毎年見学会や講演会その他の事業を実施してきたが、これは加盟各館職員の資質向上や県内大学図書館相互の交流に成果を挙げている。

以下に、12年度の主な活動を紹介する。

◇研修会等

(1) 研修会

日 時：平成12年8月1日

場 所：長崎県立長崎図書館

テーマ：図書の補修と簡易製本

講 師：永石明子氏

(県立長崎図書館資料課)

参加者：18名(8機関)

※ 数多く利用され破損した図書の修復について、職員の手で補修を行い再度の利用のために甦らせる技術の習得を実習した。



(講師の手技を真剣に見つめる受講者たち)

(2) 研修会

日 時：平成12年8月21日

場 所：長崎外国語短期大学

マルチメディアライブラリー

テーマ：利用指導への工夫

発 表：森茂樹(活水女子大学)

野口加代美氏(長崎総合科学大学)

小坂益子氏(長崎外国語短期大学)

参加者：22名(10機関)

※ 3名の発表や実践をもとに各館における利用者教育への取り組み等について、討論や情報交換を行った。

(3) 見学会

日 時：平成12年11月15日

場 所：シーボルト記念館

講 師：永松実氏（同館学芸員）

参加者：17名（8機関）

※ 類似施設である同館の展示や収蔵状況を見学し、資料の収集・整理や利用者への対応等についても意見交換を行った。

(4) 講演会

日 時：平成13年2月21日

場 所：長崎大学附属図書館視聴覚室

講演者及び演題：

1) 大家重夫氏（久留米大学法学部教授）

著作権の概要と最近の状況

2) 黒澤節男氏（九州芸術工科大学教授）

大学図書館と著作権

参加者：35名（10機関）

※ 著作権に関する最近の動向と特に図書館における問題点について専門家から講義していただいた。なお、本講演会には公共図書館関係者8名の参加もあり、活発な質疑応答は関心の高さを感させた。



（著作権の講義をされる黒澤講師）

◇単位互換制度に伴う

来館学生への対応アンケートの実施

県内では平成13年度から長崎県大学単位互換制度が発足することになり、既に協定調印式も10月16日に行われ、実施に向けての具体的な準備が進められている。

各大学の図書館においてもどのような対応をとるのか、入館手続き、貸出の許可、さらにパソコンやビデオ利用等についてはどうするか等々、

他大学所属の受講学生への図書館利用について検討を進めているが、加盟12館の各々の対応について10月にアンケートを実施し、集計結果を配布して相互に情報交換している。

13年度中には1年間の状況を見ただけ、互換単位科目受講学生への対応をできるだけ均等にするなどの検討を進める予定である。

◇公共図書館との連携協力体制の構築

昨年6月1日付で長崎県公共図書館等協議会長から県大図協の会長宛に「長崎県の図書館関係協議会間の連携推進について」という文書が届けられた。

その内容は「県内の公共図書館設置率が全国でも最下位に近く図書館設置機運を高めようとするも、必ずしも望ましい方向に進んでいないこと。しかし多様化し増加する利用者のニーズに応えるためには、館種を越えた組織・ネットワークの形成が必要であり、当面、両協議会で幅広い連携と情報交換を行っていきたい」というものであった。

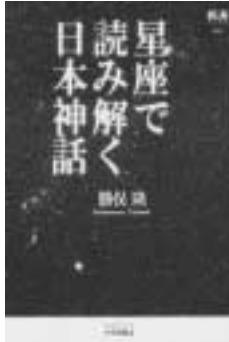
その後に開催された県大図協総会において、当館板倉館長から、県大図協加盟館のみならず館種を越えて地域の図書館とも連携を図りたいとの挨拶があり、大学図書館としても学生が各地域の公共図書館にお世話になっており、地域社会との連携のためにも対応すべきものとしてその後、両協議会会長館の事務担当者らが話し合いを続けている。

具体的には、双方の研修会への相互案内と参加や講師の派遣など、少しずつでも地道に活動と交流を積み上げていこうということになり、さらに具体的な方策を練っているところである。

（図書館専門員 喜多芳明・きた よしあき）

本学関係教官著作寄贈図書

(平成12年10月～13年1月)



勝俣 隆 著
星座で読み解く日本神話

(大修館書店)

従来、日本人は星に関心なく、星座神話は存在しないとされて来たが、本書では、国文学と天文知識を結合させ、日本神話の中に星座の記述を探究した。古代日本人は、天はドーム状、星は天に開いた穴、天地を繋ぐ通路^{あめ}天の八衢^{やちまた}は星団^{すぼる}と観念したとし、^{さる}猿田毘古神^{このかみ}は^{おう}牡牛座^{しぎ}、^{あめのうずめのみこと}天宇受売命はオリオン座に比定し、^{てんそんこうりん}天孫降臨・^{あま}天の^{いわ}石屋戸^{やと}神話等を星座神話として解釈した。文学・歴史・神話・星座・天文等に関心有る方にお読み頂きたい。

(教育学部国語教育講座 勝俣 隆)



高橋和雄 著
防災対策と復興対策

(九州大学出版会)

本書は、長期化・大規模化した雲仙普賢岳の火山災害(平成2～7年)の災害応急対策から復興対策に至る経緯および災害対策・復興対策に関する市民のニーズを詳しく調査した結果をまとめ、火山災害対策の現状と課題を実態に即して明らかにしている。

これによって市街地に接近した活火山地域の防災対策および復興対策のあり方を提言している。また、本書は有珠山や三宅島の火山災害対策に活用されている。

(工学部社会開発工学科 高橋和雄)



藤野哲也 編著
日本経済の競争力と国際化

(ミネルヴァ書房)

90年代は日本経済・企業にとって大きな転換点であった。21世紀にマッチした新しいシステムを構築するために何をなすべきか、それを知るためには一歩掘り下げた視点から日本経済、企業システムについてもう一度点検して見る必要がある。

本書は、経済学、経営学、ファイナンスの専門家による切り口、グローバル・スタンダード論、アジア通貨危機と経常収支、産業空洞化、学卒一括採用、経済構造改革、金融機関の国際化、外国企業の対日投資、国際会計基準導入の視点から一連の考察を行っており、日本経済・企業システム再考に資するものであると考えている。

(経済学部総合経済学科 藤野哲也)

《長崎県関係資料紹介》

書	名	著	者	名
The history of surgery in Nagasaki		Nakanishi Akira...	[et al.]	
シーボルト旧蔵日本植物資料展：鳴滝に花開く植物図：第12回特別展		シーボルト	キュウゾウ ニホン ショクブツ シリョウテン	
これを知りたいながさき出島：ながさき浪漫		ながさき浪漫会	編集	
蝶々夫人を探して：歴史に見る心の国際交流		ブライアン・パーク	ガフニ著	
ボンベ顕彰記念会記念誌		ボンベ顕彰記念会	〔編〕	
永井隆：長崎の原爆に直撃された放射線専門医師		永井誠一	著	
長崎百話		越中哲也	著	
長崎文化考		越中哲也	著	
グラバー邸物語		嘉村国男	〔著〕	
長崎町盡し		嘉村国男	著	
人情ぶらぶら節：新・長崎風俗考		嘉村国男	著	長崎新聞社編
新編長崎名勝図絵		嘉村國男	編	
キリシタン南蛮文学入門		海老沢有道	著	
出津遺跡		外海教育委員会	〔編〕	
九州地方の民俗地図		各都道府県教育委員会	編	
シーボルトと鎖国・開国日本		宮崎道生	著	
被爆：未来へ語り継ぐ		恵の丘長崎原爆ホーム別館	編著	
雲仙火山災害の社会経済的研究		研究代表者 高島 忠		
雲仙・普賢岳災害の長期化が子どもの心身の健康および学校教育に与える影響		研究代表者 相川勝代		
長崎：歴史の旅への招待		原田伴彦	著	
厳原町誌		厳原町誌編集委員会	編	
厳原町資料館所蔵古典籍目録		厳原町資料館所蔵古典籍調査研究会	編	
長崎洋学史		古賀十二郎	著／長崎学会編集	
島原市の海中干潟遺跡：図録：島原市三会下町・安中中南・大手浜・長浜		古田正隆	著	
核兵器の廃絶と全面軍縮のために：国連事務総長への要請		広島市, 長崎市	〔編〕	
原爆被災全休像調査事業報告書		広島市衛生局原爆被害対策部	編	
雲仙火山災害における防災対策と復興対策：火山工学の確立を目指して		高橋和雄	著	
ケンペル展：ドイツ人の見た元禄時代		国立民族学博物館, ドイツー日本研究所	編	
オランダへわたった大工道具		国立歴史民俗博物館	編	
長崎の陶磁		佐賀県立九州陶磁文化館	編	
佐世保市史		佐世保市市史編さん室		
対馬の遺跡		坂田邦洋	著	
大いなる遺産長崎の教会：三沢博昭写真集		三沢博昭	写真	
大野慎子物語：チームを創る・鶴鳴「風軍団」の記録		山崎純男	著	
昭和57年7月豪雨災害に関する調査研究：長崎を中心とした豪雨災害		自然災害科 学総合研究班	〔編〕	
旧長崎街道の探訪：旧古賀の史跡		穴戸直嗣		
宗家文庫史料目録		宗家文庫調査委員会	編	
日本カトリック関係資料総合目録		純心女子短期大学早坂記念図書館カトリック文庫	編	
キリシタンの洗礼資料集		純心女子短期大学長崎地方文化史研究所	編	
わが青春-七高時代：原爆被爆記		小川美彦	〔ほか〕編	
図書類目録		松浦史料博物館	編	
長崎方言：ばってん帳：唐・南蛮・紅毛なまり		松浦直治	著	
慶長遣欧使節：徳川家康と南蛮人		松田毅一	著	
雅子斃れず：長崎原子爆弾記		石田雅子	著	
鎖国下の長崎と町人：自治と繁栄の虚実		赤瀬浩	著	
シーボルトと日本の開国・近代化		箭内健次, 宮崎道生	編	
長崎県の小字地名総覧：主な小字地図と小字地名		草野正一	〔著〕	
多良見町郷土誌		多良見町教育委員会	編	
大村史談		大村史談会		
九葉実録		大村史談会	編	
大村市立史料館所蔵史料目録		大村市立史料館	編	
長崎南蛮余情：永見徳太郎の生涯		大谷利彦	著	
史談切り抜き帳		丹羽漢吉	著	
明治六年の『長崎新聞』		丹羽漢吉	編著／平鹿次郎挿画	
長崎墓所一覧		竹内光美, 城田征義, 宮田安	著	
長崎から”いのち”を考える		猪山勝利	編	
長崎医大原子爆弾救護報告		朝日新聞社	編	
長崎における英語教育百年史		長崎英語教育百年史刊行委員会	〔編〕	
長崎100の指標：較べてみれば		長崎県企画部統計課, 長崎県統計協会	編集	
長崎とオランダ：近代日本への歩み		長崎県教育委員会	編	
三たび許すまじ		長崎県原爆被爆教師の会平和教育資料編集委員会	編	
島原半島医史		長崎県島原市医師会, 長崎県南高来郡医師会	編集	
原子爆弾後障害研究会講演集		長崎原子爆弾後障害研究会	編	
碑は訴える：原爆モニュメント・遺構集		長崎国際文化会館	編	
原爆被災資料目録		長崎国際文化会館	編	
興善町遺跡：天満ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		長崎市埋蔵文化財調査協議会	編	
市勢要覧		長崎市役所	〔編〕	

書名	著者名
人と自然。共生の作法：21世紀への提言	長崎自然共生フォーラム編著
長崎・オランダ関係資料：文化長崎一件他	長崎純心大学長崎学研究所編
長崎県文化百選	長崎新聞社編
地球・長崎：環境問題を考える	長崎新聞社報道部著
火山：雲仙普賢岳がもたらしたもの	長崎大学「火山と災害」教育研究グループ編著
昭和57年7月長崎豪雨による災害の調査報告書	長崎大学7・23長崎豪雨災害学術調査団編
長崎原爆研究	長崎大学医学部附属原爆被災学術資料センター〔編〕
長崎原子爆弾の医学的影響	長崎大学医学部附属原爆被災学術資料センター〔編〕
壱岐の経済：長崎大学壱岐調査団報告書	長崎大学壱岐調査団〔著〕
雲仙・普賢岳火山災害にいだむ：長崎大学からの提言	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
生活・地域からの健康づくり	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
身体論の現在	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
アジアの時代を迎えて	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
地域創造と大学	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
地域環境の創造	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
地域医療の最前線	長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会編
対島総合学術調査報告	長崎大学対馬調査団編
転換期の社会へ向って：人間の時間の復権と社会創造	長崎大学大学教育開放運営委員会編
人にやさしい“まちづくり”：長崎から	長崎大学大学教育開放運営委員会編
日本の水産食品と競争下の経営	長崎大学大学教育開放運営委員会編
出島のくすり	長崎大学薬学部編
ながさきことはじめ	長崎文献社編
長崎游学の標	長崎文献社編
きみたちにつたえたい：ピース・トーク	長崎平和推進協会継承部会〔著〕
ナガサキ・平和のあゆみ	長崎平和推進協会編
長崎のチンチン電車	田栗優一、宮川浩一著
館のうちと：地方文化断章	田中正明著
長崎の原爆はこうして投下された	田中孟〔著〕
肥前島原松平文庫目録	島原公民館図書部〔編〕
写真展「和船」：今はなき千石船の姿を求めて	日本海事科学振興財団編
聖サヴィエルと平戸切支丹	板橋勉著
仕訳帳1638年／仕訳帳1639年	平戸市史編さん委員会編
斜面住宅および住環境の研究	片寄俊秀〔ほか著〕
峰町誌	峰町誌編集委員会編
豊玉町誌	豊玉町誌編纂委員会編
原子野のうた声：被爆作曲家の手記	木野普見雄著
対馬の在来馬対州馬	林田重幸著

図 書 館 日 誌

・平成12年・		
11月9日	九州地区医学図書館員セミナー（於：琉大 11／9 山崎医学分館運用係長） 図書館見学（宮崎県立日向高校 父兄・職員25名）	者連絡会議（於：琉大 11／16 平林雑誌管理係員）
13日	長崎県下国立学校等中堅職員研修（於：島原共同研修センター11／13～15 深川システム管理係員・佐々木医学情報係員）	17日 新CAT／ILLシステム説明会（於：九大 11／17 森石図書管理係員・深川システム管理係員・宮崎医学分館運用係員）
14日	館報編集委員会	20日 電算機システム更新WG会議 長崎県下国立学校等職員国際交流研修（於：本学11／20～22 酒井運用係主任・山本経済学部分館図書係員・森石図書管理係員）
15日	長崎県大学図書館協議会研修見学会（於：シーボルト記念館 11／15 講師：永松実学芸員）	21日 研究開発室会議
16日	九州地区国立大学図書館協議会実務	29日 係長会議
		30日 九州地区国立大学附属図書館人事担

- | | |
|--|---|
| 当事務（課）長会議（於：九大
11／30 情報管理課長） | 授・職員4名、学生33名） |
| 九州地区国立大学附属図書館長懇談
会（於：九大 11／30 館長） | 附属図書館利用者等アンケート調査
WG会議 |
| 九州地区国立大学附属図書館電子化
推進連絡会議（於：九大 11／30
事務部長・情報管理課長・情報サー
ビス課長） | 25日 国立大学附属図書館事務部長会議
（於：徳島大学 1／25 事務部長） |
| 12月1日 九州地区国立大学附属図書館事務
（部・課）長会議（於：九大 12／1
事務部長・情報管理課長・情報サー
ビス課長） | 29日 係長会議 |
| 国立大学附属図書館に関するヒアリ
ング（（於：九大 12／1 事務部長・
情報管理課長・情報サービス課長） | 2月1日 附属図書館業務用電子計算機シス
テム一式（新規更新）業務稼働開始 |
| 5日 業務改善WG会議 | 6日 館長・分館長会議 |
| 7日 国立図書館協議会シンポジウム（於：
名大 12／7 志波原雑誌管理係長） | 附属図書館運営委員会 |
| 11日 館長・分館長会議 | 9日 レファレンス事例データベース構築
担当者連絡会（於：九大 2／9 小
森参考調査係主任） |
| 18日 図書館施設の視察（平成12年度相
互評価実地視察：（財）大学基準協
会相互評価委員会） | 15日 大学図書館情報化促進会議（於：学
術総合センター橋記念講堂 2／15
宮脇システム管理係長） |
| 20日 係長会議 | 20日 NACSIS-CAT／ILL講習
会担当者会議（於：国立情報学研
究所 2／2 志波原雑誌管理係長） |
| 26日 附属図書館運営委員会 | 21日 講演会（於：視聴覚室 講師：大家
久留米大学教授・黒澤九州芸工大学
教授）共催：長崎県大学図書館協議
会 |
| 28日 附属図書館仕事納め式 | 22日 経済学部分館運営委員会 |
| | 23日 医学分館運営委員会 |
| | 26日 講演会（於：視聴覚室 講師：郷端
立命館大学総合情報センター次長・
加藤慶応大学三田メディアセンター
事務次長） |
| | 27日 係長会議 |
- ・平成13年・
- | | |
|----------------------|--|
| 1月4日 附属図書館仕事始め式 | |
| 12日 図書館見学（韓国：中央大学校 教 | |

長崎大学附属図書館報 図書館ニュース No.82 2001年3月31日発行

編集委員会：委員長 村上章徳

委員 松尾貴久・堤 尚子・塩塚一枝・酒井小夜子・原田一洋・山本知美

発行：長崎大学附属図書館 〒852-8521 長崎市文教町1-14 ☎(095)847-1111(代)
ホームページアドレス：<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/index-j.html>